

# 信州大学 教育学部 同窓会報

信州大学教育学部同窓会報

【第11号】

発行人 矢嶋直徳  
 事務局 長野市西長野6ノロ  
 信州大学教育学部  
 教育実践研究  
 指導センター内  
 TEL (026) 232-8106 (代表)  
 FAX (026) 234-5540

## 今年の総会は母校で

同窓会長 矢嶋直徳



今年、現在の教育制度が満足して丁度五十年になります。そして、この五十年の世界の歩みは、二大國とイデオロギーの対立から出発したといっても過言ではありません。

はありません。しかし、こうした対立の中で、世界や日本も大きく発展して今日に至りました。母校もこの世界の発展の時に、師範学校から信州大学教育学部として発足しました。そして現在、師範学校時代からの卒業生は、二九、七四八名（明治六年以来）になり、学部卒業生（修了生も含めて）だけでも一二、九六五名（昭和二八年〜平成九年）、大学院修了生は二二二名（平成五年〜平成九年）にもなりました。このような時に互いの五十年の歩みに思いを巡らしてみますと、それぞれが学んだ当時の若き青春時代の燃えに燃えたあの頃のこと、鮮かに蘇って来て感慨深いも

のがあるかと思いません。そして、かような思いの中に自己の姿と己れの歩みが立像の様に浮き出てきますし、五十年の母校の発展の歴史が力強く浮かび上がってきます。わが母校の歩みは、本県は勿論のこと戦後の日本の教育を大きく担ってきました。そのことは、今、キャンパスに足を踏み入れますと、かつての様子を窺わせる建物を残しつつ、古い建物にかわって近代的な研究室と教室が並ぶようすなどからも察せられます。そして西側の附属中学校は、既に昭和五十五年に移転し、附属小学校もこの四月に移転しました。

一方、教育の現場では、本県の義務教育関係の教職員の殆どが同窓生であった以前とは変わり、このところ県下の中学校の新任教師の同窓生は、めっきり減ってきています。このことは、最近の卒業生は、教職だけでなく、広くあらゆる職種を目標して進んでいることを意味しているのでしょうか。

そこでこのような時こそ、母校と会員各位の更なる発展を願いつつ、本年度の総会は母校で開催することにしたしました。八月十一日は、久しぶりの母校訪問の機会でもあり、この五十年の歩みに互いが思いを巡らすよき機会でもあります。一人でも多くの会員各位の出席を願っています。

## 今年度の記念講演 (一般公開)

平成九年八月十一日(月)に信州大学教育学部で開かれる今年度総会の後の記念講演は前長野県山岳協会会長の田村宣紀氏(プロフィールは八ページ)によるチョモランガ峰登頂に関するお話です。お誘い合せてお出かけ下さい。(写真はチョモランガ峰)



# 第九回同窓会総会報告

信州大学教育学部の平成八年度通常総会は、定例日である八月十一日(日)、長野市のホテル国際21において、会員七十余名の参加を得て開催された。

古川玲子副会長の開会宣言、矢島直徳会長の開会挨拶に続いて、議長団に高野栄介・渡辺勝雄、議事録署名委員に和田清・藤巻幹郎、書記に久保信男・横沢瑛の各氏を選任して議事に入り、次の三議案を審議した。

### ◎第一号議案

平成七年度事業報告書、及び収入・支出決算報告書・財産目録の承認に関する件

中村浩志幹事の事業報告、渡辺時大幹事の会計報告が、それぞれ総会資料に基づいて行われ、清水厚実監事から「会計は適正に処理されている」旨の監査報告があつて、全会一致で承認された。

### ◎第二号議案

平成八年度事業計画書案、及び収入・支出予算書案の承認に関する件

中村幹事から事業計画案、渡辺幹事から収入・支出予算案が、それぞれ総会資料に基づいて行われ、審議の後原案通りに承認された。事業計画の主要なものは、次の通りである。

- 一、会報発行 第十号の会報を発行する。
- 二、研究助成 文部省海外派遣制度による留学生への補助をする。
- 三、学部後援 学部及び大学院の充実に援助をする。
- 四、組織充実 支部組織化の促進、会費納入の促進をする。

五、長期構想計画 長期構想を継続検討する。

### ◎第三号議案

役員交代と補充に関する件  
矢島会長より以下の役員交代と補充の説明がなされる。

- (1)新幹事に 丸山恒男氏
- (2)新地区代表理事に 下平正人氏(上伊那)

藤巻幹郎氏(長野)  
伴 健利氏(県外)

拍手により全会一致で承認された。



第九回総会の様子

議事終了の後、北條舒正織維学部「千曲会」会長、小林輝行教育学部長の祝辞を戴き、総会を終了した。

総会に続いて大阪市立大学教授山岸哲氏による「不思議の島マダガスカル」と題する講演(一般公開)があり、さらに午後の懇親会をもってすべての日程を終了した。

◎住所変更の届けを忘れずに！  
卒業後時間がたつにつれて郵便物が返送されてくるが多くなります。住所変更の届を忘れずに事務局へおねがいます。

### 先輩から後輩へ

—子どもたちにもふるさとを語りたい—

同窓会副会長 古川玲子



子どもたちにとってのふるさとが、血につながるふるさと、心につながるふるさと、言葉につながるふるさと」という藤村の言葉のようになることを念じて、

もっぱらふるさとをテーマに講話をされている先輩に、私は出会うことができました。多忙な中で時を惜んで資料を調べ、地域を探訪し、人々を訪ねて得られた情報をもとに語られるふるさとの話は、子どもたちの心に浸み込んでいきます。そして、この先輩の話を聞く度に私も心が潤い、教師としてのあり方を考えることができました。やがてこの先輩の姿に学んだことが、私にも自然と子どもたちにもふるさとを語らせることになりました。学校の沿革を調べ、地域を歩き、古老や先輩、卒業生等多くの人々を訪ね歩くうち、人々とのかわり広がり、深まってきました。そ

して、地域の人々の学校によせる熱い思いやその人たちが嘗々と築いてきた伝統、人々のたゆまぬ努力さらには偉大な人々の功績等多くの大事なことを教えていただくこともできました。

こうした経験が積み重なってくると私たちが地域に腰を据えて仕事をするためには学校や地域について知る努力をし、そこに生きた人々に学ぶ姿勢を持ち続けることがいかに大切かよくわかってきました。

私は、これからも「ふるさとのすばらしさを伝え、ふるさとを愛し、ふるさとに誇りをもつ子どもが育つこと」を念じ続けた先輩の心を大事にして、そこに学びながら私も私の実践を続けていこうと思います。

学生諸君、  
複数免許取得の努力を！

同窓会副会長 佐野昌男



一昨年の会報で島田孝司副会長が、長野市に在職している先生の教育学部卒の割合を出してくれた。

それによると中学校の先生では二十代二五・六、三十代四三・八、四十代四二・〇パーセントのことである。

この数字を少しでも上げるために在学中の学生諸君に複数免許取得に努力してもらいたい。この願いは、現場でも切実である。

県下の中学校で七学級以下（特殊学級も含める）の学校は約五十数校あり、このような小規模校では、教員数が六く十一名で、その先生が単免となると十教科がカバーできず、どうしても免許

外教科担当者がでてしまう。しかも、教科によっては週五時間もあれば二時間もあり、先生ひとり当りの持ち時数もある程度平均化しなくてはならないため、さらに非免授業が増えてしまう。

そこで、お願いしたいことは、小学校に主免があったら中学校の二種免許を二教科、中学校に主免があったら小学校ともう一教科二種免許取得の努力をしてもらいたい。これは小中という校種間の違う現場での交流も可能にするからである。

もし、在学中に取得不可能であれば、できるだけ単位を貯金しておいて、現場に出てから、そこへ上乘せして取得してもらいたい。

心のゆとり

同窓会副会長 島田孝司



今朝も時間に追われながらの出勤である。前の車は横道でウインカーを出して待っている車があれば前に入れてあげている。心が騒ぎ目が自然と時計の文字盤

に行く。

駐車場に車を止め両手に荷物を持って事務所へと急ぐ。安曇野を吹き抜けてきたアルプスおろしが松本合庁に当たり勢いを増し頬を突き刺す。その風に抗して目の前をキャリアウーマンが颯爽と行き、通用口のドアを開け一足早く入る。続いて入ろうと足を速めた私の顔の前でドアは自然に元に戻り閉まる。荷物を持ち替えてドアのノブを回し庁内に入る。出勤時であり次から次と職員が続

いているのでドアを押さえ一呼吸待って次の人にバトンを渡していく。朝の挨拶があり一瞬爽やかな風が吹く。

エレベーターで五階に向かう。途中年輩の方が軽く会釈をして乗ってこられる。押し黙った狭い不思議な空間に温かな空気が流れる。

会議で席を空ける。戻ると電話があった旨のメモがある。そこには相手の電話番号が記されている。何という心配りか。

子供達から「先生、先生」と呼ばれて三十年余の教職生活の中で忘れていた、人としてのあり方を大人同士の生活の中で新鮮に感じられる日々である。



教育学部西校舎と整備された正門付近

# の 近 況

## ご 挨拶



教育学部長 漆戸邦夫

この度、小林輝行前学部長の後を受け、平成九年四月より学部長を仰せつかった漆戸でございます。浅学非才で全く適任ではございませんが、同窓会の皆様方のご支援ご協力をいただき、教育学部の発展充実のために全力を傾注して参る所存であります。何とぞよろしくお願い申し上げます。

ご存じのように、教員養成大学・学部が置かれている環境は危機的であります。国際化、情報化、生涯学習社会という激動する社会の変化に対応する教員養成をいかにするか、少子化現象の進行にともなう児童・生徒数の激減が教員の需要を大きく減少させている問題にいかに対応するかということなどが求められております。

こうした中で、学部が取り組んでいることや、今後推進すべき課題の一部について申し上げますと、まず、教員養成の質的充実を計るために、大学院教育学研究科の充実が必要であります。修士課程については、設置時の基本構想に盛り込まれた諸事項が実現できているか点検を進めております。また、博士課程については、愛知教育大学を基幹大学

とする連合大学院に参加することを決めており、なるべく早期に設置できるよう準備に入っております。

次に、今日のさまざまな教育問題は、教師の資質や実践的指導力の欠如と深くかかわっていることが指摘されております。本学においては、実践的指導力の基礎を培うカリキュラム開発を行うことが重要な課題であります。平成八年度一年生に必修とし、臨床経験の授業「教育参加」を開講いたしました。松本附属学校園を初め関係教育機関で行われている教育活動に実際に学生たちが参加して、子どもや教師と触れ合う実践を通して、学生たちが子ども理解、教師理解、学校理解を深め、教育への関心・意欲を高めることを目的としたものであります。学生たちは意欲的に参加しており、学生を受け入れる側においても好評でありました。本年度も昨年度の反省を基に改善を加え実施しております。

また、生涯学習社会の到来を迎えて、生涯スポーツ指導者養成の場として、平成七年度開設した生涯スポーツ課程の充実も課題であります。さらに、学校週五日制への対応、地域社会との連携や大学開放についても、休日の土曜日に、地域の子どもたちを大学キャンパスに迎え、遊びや学びの体験講座を学生が自主的に開いている、「信大YOU遊サタデー」のような企画を一層推進するとともに、学校外教育に対応するための研究教育体制づくりも必要かと思えます。

最後になりましたが、同窓会の皆様には、日頃学部の研究教育に格別なご理解を賜り、物心両面にわたる多大なご支援ご協力をいただいておりますことに対して、心より厚く御礼を申し上げます。どうか今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 終わりに心込め

### 附属長野小学校の新校舎に夢を

附属長野小学校副校長 加藤達人

長野市北堀の三万三千方メートルという土地に、総工費約四十億円をかけた鉄筋コンクリート三階建ての校舎および体育館が、今、春の柔らかな光の中に美しい姿を現わしました。昔は湿地帯、その後は水田や林檎畑だった所に出現した、この夢一杯の現代的な校舎に道行く人や車窓の人は感嘆の声をあげています。平成八年四月二十六日地鎮祭をし連休明けから工事着工。以来、まさに連日連夜の超スピードで進められ、今年四月に開校となりました。今、新校舎からは、子どもたちの元気な声が響き渡っています。

既に、前号で渡邊時夫学長から、校舎の内容、特徴については紹介されていますので、ここでは、目下の課題や子どもたちの取り組みについて、紹介いたします。

(1) 校舎の完成・引渡ししが三月十四日、体育館の方は、四月十日でしたが、三月末に、PTAの皆さんの協力も得て、集中して引越しをいたしました。

(2) 始業式は四月七日に、旧校舎の体育館で行い入学式は四月十四日に新体育館で実施。

(3) 安全性の確保を第一に、子どもたちの通学上の問題の解決をはかること。

- ① プラットホームの拡幅
- ② 電鉄線を渡る歩道橋の設置 等

- (4) 新校舎の周辺部の豊かな環境づくり。
- ① 校庭の整備
- ② 自然体験園の開園
- ③ 植樹(親子「ふるさとの森」づくり) 等

# 教育学部

子どもたちは今、新しい校舎で夢をふくらませながら、旧校舎への思い出もあたたためています。そんな古い校舎への愛着を示す文章が私には忘れられません。

・ぼくは今日とはとてもうれいのです。なぜかという、朝早くきて長く校舎といっしょにいられたからです。(三年 男子)

・古くなった放送。最近調子が悪いけど、放送室の一曲で学校が始まっていたんだ。(六年 女子)

・おそうじをがんばる。校舎のために。(四年 男子)

(これは、廊下に置かれた「感動の一言」ポストに入っていた子どもたちの言葉です。三月には毎日こうした感動の一言が寄せられていました。)

今、私は、新校舎での第一歩を確かなものにするべく、みんなで心をつなげて一日一日を過ごしているところです。

## 研究助成海外派遣学生便り

### 「異文化の交流について」

家庭科(食物) 武田恵実

英語を第二言語とする学生が、高齢者のアメリカ人に自分の国の文化を紹介するという企画に参加した時のことを話したいと思います。

私は、困らんしながら高齢者と会話する会だと聞いていたので、何の用意もなく会場へ行きました。すると、しっかり演台が用意され、プログラムの組まれたものでした。テーマは「伝統的休日」。クリスマス前のイベントでしたので、クリ

スマスを紹介するのがぞまじいのでしょうが、アメリカのほほまねだと思われるので、前の人のスピーチをききながら、お正月のことを思い出して、必死で考えました。

私のスピーチはとても、よい出来とは言えませんが、話している際中のとっさの質問の際や、自己紹介をした時などに長野について話をすると、長野の次の冬季五輪がここソルトレイクシティだけあり、かなりの人が長野について知っていたりしてリラククスして話せました。また、それにまつわる衣装、食物、楽器など持ってくるよう言われていたので、私は、おせち料理とまではいきませんが、お正月に食べるようなものを持っていました。

東洋食品を扱っている店で材料をさがし、のり巻きとあんのもち二種と、田作り、かまぼこ、なます、などをかろうじて用意しました。前夜、寮の台所での用意でしたので、ものめずらしげに、いろんな子が見に来たりしてその際の彼らの反応も楽しいものでした。

スピーチの後、「あたなの話良かったわよ」とわざわざ言いに来てくれたおばあさんや、日本に三日だけ行ったことのあるおじいさんなど、たくさんの方が日本食に興味を持ってくれました。絶対みんな嫌いだらうという私の予想とは裏はらに意外と田造りとかまぼこが人気でした。つくり方をきく人もいました。

数ヶ月過ぎましたが文化の違いにまだまだ驚かされるがあります。そういうことがいろいろな国の人と交わる楽しみなのではないかと思えます。

### 「私にとってのアメリカ留学」

英語科(英語科教育) 藤田万美子

初めて「英語」というものに触れて以来、その

魅力にとりつかれ、長年アメリカ留学を希望していた私にとって、今回のチャンスは何物にも勝る喜びでした。

最初の頃は、慣れない食生活と気候の為に体調を崩してしまったり、度重なるコミュニケーションの違いから、自信喪失しがちでしたが、こちらの物価はかなり安い為、自分でスーパーに行き、材料をそろえ、寮のキッチンで日本食を調理することが出来ます。又、授業を通し、アメリカ人の学生と友達になり、Thanks Giving(感謝祭)の時には、パーティーに招待されるという楽しい異文化体験を通し、少しずつですが、自分の英語力にも自信が持てました。

確かに、留学する前と今とでの理想と現実の差に悩む事も少なくありませんでしたが、留学を通し、私は自分自身で道を切り開く事の大切さを学びました。困っていても黙っていたら誰も助けてくれません。"Excuse me."さえ言えれば手を差し延べてくれる人がそこにいるのです。

アメリカ留学は英語力の向上だけでなく、将来英語を教える際非常に役立つと思われる、実際英語が使われている世界で生活するという素晴らしい体験をも与えてくれるのです。

### 平成八年度教育学部卒業生の進路

進路先	人数
長野県義務教育教員	158
長野県高校教員	5
県外教員	23
民間企業	48
公務員	16
大学院進学等	34
その他	53
合計	337名

平成9年5月1日現在

会

員

の

声



記念講演の講師を囲んで

### 東京の信州教育

塚田 亮

「今は精神主義では読んでももらえませんが、マニアル時代です。」

ある雑誌編集者の言葉である。教育書が売れなくなった理由もこんな時代の流れがあるのだろうか。研究会でも流行の言葉が飛びかかっており、内容が浅く具体的な子供の姿が見えないことがよくある。

こんな時だからこそ、大事にしていきたい月例会がある。信山会（同窓会東京支部）の有志の会である。土橋荘司会長を囲んで「信州教育を考える会」を行っている。

今まで提案されたタイトル例を挙げると次のようなものがある。

「これからの学校を考える」「教育課題のとりえ方」「今日に生きる島木赤彦の教育」「山本鼎と感性の教育」「総合学習（信州）の実践に学ぶ」

「自然体験と美意識について」とまだまだ続いている。そして、この会で議論して何度か書き直したものを「教育新聞」に発表している。

この会で提案された信州教育には、情熱的で実践力のある教師と素直で誠実な子供の出会いがある。そこにはじめてすばらしい教育が生まれたものだと痛感している。

村の財政も、子供の生活も決して豊かではなかった私たちの子供の頃でも、信州には今の東京の学校には薄れている手づくりのあたたかい人間的な、本物の教育があった。

信州という風土に生き、風土の制約を超えようとするハングリー精神があった。

私は教育を考えると、いつも原点を見つめ直す必要があると考えている。その原点の一つに、この会で大事にしている、私たちの受けた信州教育をすえて見ている。そして、これからもそうしていきたい。

（東京都 上原小学校）

### 明るく元気に。

立澤孝延

社会情勢が目まぐるしく変わるなか、教育界では、いじめ・不登校、学力問題等々多くの問題が山積しています。そんな中で、現場の先生方は幾つかの問題を抱えながら日夜奮闘しています。頑張っている先生方を見て頭の下がる思いです。

さて、私たち教師は毎日子どもと接しています。昨日のA子さんと今日のAさんは違います。一日一日確実に成長しています。こんな子どもたちを前にして、私たち教師の大切なことは何だろうかと考えてみました。子どもたちを立派な人間に育てるお手伝いをしてるのが教師です。そして、それは学校生活の中で主に行われていま

す。そう考えたとき学級経営の場が最も大切であると思えました。今まで多くの先生方の学級経営を見させていただき勉強した中で、何事にも前向きで意欲的な子どもを育てている先生を見て、自分と比べて何が違うのかと良く反省したものです。その先生は実に朗らかで子どもたちと接していました。これが大切なんだと思ったものです。

先日、ある会で京都大学教授の梶田先生の文を紹介していただきました。『教師の仕事は、目の前の子供の心を活性化するところから始まる。どんなに工夫して教材の提示をしても、どんなに筋道を立てて学習課題の説明をしても、子供の心が沈み込んでいたり、閉鎖されていたりすれば、学習どころではない。教師は、何よりもまず、明るく元気で、活気を放散する存在でなくてはならない。』と。これだと思いました。そして最後に『人間が人間を教育するのである。明るく元気でなくては、心と心の触れ合いは実現しないのである。』と結ばれていました。

毎日、子供たちと接する私たち教師は、常に明るくそして元気を保っていたいものだと思います。

（松本市 本郷小学校）

### 同窓会と私のかかわり

田幸重彦

地区代表理事をおおせつかって二年目になる。地区としてこれといった活動はしていない。本部から送られてくる会費未納会員への文書の発送と役員会、通常総会への出席が主たる仕事であった。

平成七年度の総会で吉岡忍先生の記念講演を拝聴した。平成八年度は、地元須坂市出身の山岸哲先生が講師であった。内容も興味深かったので会

員へチラシを配布し参加を呼びかけたが、私自身のつびきならぬ用事が入ってしまい出席できず誠に残念であった。

この二年間、信大同窓会とは別のかかわりがあった。美術科同窓会の会長役がまわってきたことである。平成九年一月五日に第二十七回目を迎え、松本市深志神社産館を会場として開催した。  
(前回は長野市)

平成八年四月には恩師石川泰男先生が他界され、さびしい思いを共に分ち合った。

一方、平成七年、八年にわたって、関谷俊行先生の退官記念式と記念論文集発行の仕事が実行委員会を組織してすすめられ過日配本の運びとなった。

このような事業を通して学部(学生)と学校現場や先輩諸兄とがつながりをもつと共に学部変革の現状や今後の教育のあり様を考え合うことの意義を深くしているところである。  
(上高井郡 栗ガ丘小学校)

### 地区理事をつとめて

三原正道

先輩に説かれて二年間の地区理事をつとめさせていただきました。とは言ってもあまりその任を果たすことができたとは言えませんが、昨年度よりは今年度の方が多少会費の納入が多くなったと思われることとお許し願いたいと思います。役に立たなかった分は、これから機会を見つけて会費の納入を含めて教育学部の発展のために微力を尽くして参りたいと思います。

それにしても、卒業して三十余年を経て、母校の同窓会にかかわらせていただき、学生の頃を思い出させていただきました。何か世の中の役に立

つような新化学物質が出来るのではないかと、心ときめかして夜中過ぎまで実験を繰り返していると、管理員さんが回って来て、頑張れと石炭を余分に下さったことが、昨日の事のように思い出されます。

教育に携わることに関心を燃やしてくれる後輩が多く育ってくれるような環境作り、改めて微力を尽くしたいと考える機会になりました。  
(南安曇郡 穂高西小学校)



新しくなった附属長野小学校

### ◎同窓会費の納入について

本同窓会は終身会費制をとっています。入会時に一万円を納入いただくと、以後の会費徴収はありません。会費を納入くださった会員のみ、この会報を個人宛郵送しております。二重払いのないようご注意ください。

なお、今年度は計一六一名の卒業生の方から会費を納入していただきました。会費納入の働きかけをしていただきました地区理事の皆様ごろうさまでした。

## クラス会・同級会だより

### 友垣会

「友垣会」は、昭和三十四年度に教育実習を附属長野小学校で行った一類教育実習生(六十四名)とその時の指導教官二十六名(含故人五名)の集まりです。

会の名称は高野辰之氏作詞の「故郷」の中にある言葉「恙なしや友がき」からとらせてもらいました。

教育実習からすでに三十八年がたっています。友垣会は平成八年までに十八回ひらかれました。来し方を思い、明日を語る楽しい会で、今年も第十九回を開催すべく準備をすすめています。この会を始めるにあたり、当時の教頭先生であった深沢正先生が「卒業してからも続けることができますか?」と聞かれましたが、現在では「退職してからも続けることができますか?」と聞かれそうなる年になりました。

しかし、会をひらくことに思い出も増えていくすばらしい会ですので、いつまでも楽しく続けていきたいと思っています。  
(近藤信也)

### 平成八年度末退職教官の紹介

次の三名の先生方が定年により退職されました。

井出嘉憲 先生 社会科教育政治分野 平成四年着任

市田儀一郎 先生 音楽教育器楽分野 平成五年着任

吉沢文雄 先生 保健体育運動学分野 平成七年着任



前長野県山岳協会会長 田村宣紀氏

「鵬程万里」

―日中合同チョモラリ峰登山の記録から―

記念講演 (一般公開) 十一時より

中国チベットとブータン  
国境に位置し、美しい山容  
で知られる名峰チョモラリ  
が一九九六年秋長野県山岳  
協会と中国登山協会の合同  
登山隊によって登頂された。

信州大学教育  
学部同窓会

第十回通常総会(通知)

日時

平成9年8月11日(月)

午前10時より

会場

信州大学教育学部E504教室

総会次第

1. 開会宣言
2. 会長挨拶
3. 議長団選任
4. 議事録署名人の選任並びに書記の任命
5. 議事

第一号議案 平成8年度事業

報告、収入・支出決算及び  
財産目録の承認について

第二号議案 平成9年度事業

計画(案)及び収入・支出  
予算(案)の承認について

第三号議案 役員の変更・任

期の確認について

6. 来賓祝辞

7. 閉会宣言

記念講演会: 11時より E504教  
室にて

懇親会: 12時45分より生協  
食堂にて

教育学部駐車場が使えます

ヒマラヤの頂稜に描く登山家の夢は果てしない  
が、超高所ヒマラヤの大自然は厳しい。人間力で  
ある科学、技術、体力そして精神の力と大自然の  
戦いは、予想をこえるドラマを生む。前長野県山  
岳協会会長であり、今回の登山隊実行委員長、登  
山隊顧問であった演者から、日中合同チョモラリ  
登頂のドラマを聞く。

△プロフィール▽

一九四〇年十月 長野県豊野町生まれ

一九五八年三月 長野県長野高等学校卒業

一九五八年四月 NTTに勤務して現在に至る

一九六一年十月 山岳会/グループ・ド・モレ

ヌ会員、日本山岳会員

一九七一年夏季 西アジア登山探検隊長(トル

コ/タラス山脈、イラン/ザク

一九七六年秋季

ロス山脈で登山と探検)

日本・イラン合同マナスル登山  
隊登攀隊長として秋季マナスル  
峰(八、二五六メートル)に初  
登頂

一九八一年

中国登山協会と長野県山岳協会

の登山技術交流の牽引役として

以後今日まで十六年間をリード

一九八四年

長野県山岳協会会長、日本山岳

協会常務理事

一九九〇年春季

中国チベット、チャンタン高原

登山探検隊長としてザンセル

一九九〇年春季

・カンリ峰(六、四六一メー

トル)に初登頂

△著書▽

「ヒマラヤの賦」(桐原書店)

△長野県山岳協会▽

一九六一年に設立され三十六年の歴史を持つ。  
現在四十五団体、約一五〇〇人で構成され、里山  
からヒマラヤまで広いフィールドで、高所登山、  
遭難防止、自然保護、競技登山、交流の活動を展  
開している。

特に山国県にありがちな閉鎖性を打破しよう  
と、海外登山の活動は活発で日本岳界のリード・  
オフ・マン的な役割を果たしている。また、中国  
登山協会との友好交流活動は一九八一年から今日  
まで十六年の長きにわたっており、中国登山界の  
安全登山技術の発展にも大きく貢献した。

記念講演会終了後、教育学部生協一階食堂  
において懇親会(会費三〇〇円)を開催し  
ます。こちらへも多数ご参加くださいますよ  
うご案内申し上げます。申し込みは同封の葉  
書で事務局までお願いします。